

日仏訪問プロジェクト報告書

フランスを訪問して

高知県立高知農業高等学校
食品ビジネス科 1年 男子

1 はじめに

高知農業高等学校に昨年入学し、1学期から日仏農業高校交流プロジェクトに参加していました。メール交流やホストファミリーとして交流を深める中で、フランスへ行きたいという思いが大きな目標になっていました。

今回、プロジェクトに参加し、フランスの農業、食文化について学んできました。私はフランスに行く前に「フランスに農業の研修に行くんだ～。」と言うと、ほとんどの人が「フランスの農業はすごいよ。」と言っていました。私は日本と大して違いはないだろうと思っていました。しかし、飛行機の上から眺めるフランスの景色が見え始めたところで私の予想は覆りました。まず、広大な土地に合わせて田畠の数の違い、そして風車の数など…。こんな広い面積の田畠を個人が所有しているのかと驚きました。日本でもこんなに広いのか、と驚かされることもありますが、それを大きく上回る広さでした。それが僕のフランス訪問での一番大きな衝撃でした。

2 プロジェクトに参加して

二日目は学校訪問でした。まず、日本と違うなと思ったところは”学年”的ことです。1校目の訪問校、プレサン農業高校の全校生徒数は約280人で、中学生と高校生が一緒に在籍しています。そのうち100人程度がより専門的なことを学び、中には見習いの人たちもいるそうです。約80パーセントの生徒は農業関係の進路に進むと校長先生が話していました。高知農業の卒業生の進路は様々で、看護系や教育系など農業から離れる人がいますが、プレサン農業高校の生徒は将来農業の家を継ぎ、自分で農業に関係することをしたい人などが来るそうです。自分の強い目的を持って学校に通っているのがすごいと感じました。種まきの見学もしました。そこでは種と土を合わせたものを混ぜ合わせポットに移し替えていました。私は食品系のことを学んでいるため、理解は追いつきませんでしたが、ハウスの中にある植物は、日本とは違うものばかりで、食文化により使う食材も違うことを実感しました。午後は、本校が一番関わりを持っているシバ



図 1 高知市帯屋町にて



図 2 シバの犬

ンス農業高校を訪問しました。久しぶりの友との再会にみんな抱き合ってました。11月に来日していた友人達が各施設説明を担当してくれる中で、施設見学をしました。シバンス農業高校では、家畜だけでなく色々な動物が飼育されていました。犬、ネズミ、鳥、蛇、魚、亀、ウーパールーパーなど…。高知農業ではほとんど家畜系の動物しか飼育していません。ペットビジネスも農業の領域に入っていて、犬の飼育・繁殖・販売をする取り組みを、新鮮に感じました。私の家でホームステイをした友達は、将来ペットショップでセールストレーニングをするために専門の知識を学んでいました。彼らの担当している犬たちは、どの子も人懐っこく元気のある子ばかりでした。牛を飼っているスペースなどもとても広く設備も整っており、牛たちのびのび暮らしていました。アニマルウェルフェアを意識した飼育が行われていることを証明しているようでした。私たち高知農業高生は全員、11月にホームステイを受け入れた生徒の家に滞在できることになり、最高のステイとなりました。実は、私はこのホームステイが一番の楽しみでした。家族みんな快く私を受け入れてくれ、その場にいて居心地が良く、翻訳機を使ってでもコミュニケーションを取ろうとしてくれました。そのおかげで充実した夜になりました。ホームステイでの発見は、フランスにもお茶の文化があることです。色々な種類の中で私が選んだ中国茶の味は、日本で普段飲んでいるお茶と同じ味がして、驚きました。

三日目は、ワイナリー工場、ソーセージ工房、リヨン美食館交流事業、立食カルテルなどいろいろな体験・見学などをとおして、日本とフランスの大きな食文化の違いに気が付きました。それは”食事の重要視の違い”です。フランスの食事時間はとにかく長いと感じました。日本では食べるものを食べたらもう終わりというケースが多いのですが、フランスでは食事をしながら家族や友人との団欒の時間を大切にしているように感じました。私もその時間が楽しかったです。その大事な時間のために、食卓にのるワインやソーセージ、チーズがこだわりを持って作られているように感じました。私も、家族と食事の時間を大切にしたいです。

3 今後の活動

この研修ではフランスの農業について多くのことを学ぶことができました。日本にはフランスから遅れていることがたくさんありました。フランスでは、未来を見据えた、環境（自然環境と



図3 友人と再会



図4 ホストファミリーと集合写真

野生の生き物も含めた）と農の共存を考えた作法を実施していました。また、家畜に対する認識の差も感じました。日本は家畜＝食べたり、飲んだり命をいただくために育てる動物ですが、シバーンス農業高校ではアニマルウェルフェアを取り入れた飼育をしていました。冒頭に書いた「フランスの農業はすごいよ。」と言われた理由がよくわかりました。この3日間の経験や学びは、報告会などをとおして学校全体で共有していきます。また、食品ビジネス科でお茶に関する授業が二年生から始まりますが、高知農業のお茶とともにお茶に関する知識をフランスの学校と共有したいと思います。シバーンスと高知の親交を深め、更に強いパートナーシップを築きながら、農業についてり合えるような仲になっていきたいと思います。